

様式第 4 号（英語指導法改善研究）

宜小発 第 238 号
令和 5 年 2 月 22 日

宜野湾市教育委員会
教育長 仲村 宗男 様

宜野湾市立宜野湾小学校
校長 甲斐 達二

指定研究実績報告書（英語指導法改善研究）

令和 4 年 5 月 25 日付け指令第 339 号-3 による指定研究を終了しましたので、
下記のとおり研究実績を報告します。

- 1 研究報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 部
 - ① 研究主題
 - ② 研究主題の設定理由
 - ③ 研究の主な内容
 - ④ 研究の成果と課題
 - ⑤ 外部評価 ※令和 3 年度より新規追加

- 2 経費の内訳状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 部

令和4年度 宜野湾小学校の取り組み（指定研究実績報告書）

1 研究主題

異文化に対する理解を深め、主体的にコミュニケーションを図る児童の育成
～「触れる」「慣れる」「親しむ」外国語及び外国語活動を通して～

2 研究主題設定の理由

平成16年度から本市では、教育特区として、英語学習及び異文化理解への興味関心を高めるための特別なカリキュラムで英語教育を展開しており、英語教育課程特例校としてこれまでの取り組みを継続している。更に、その事業を引き継ぎ平成21年度より「宜野湾市小学校英語教育課程特例校事業」として小学校1年生（週1時間）からの英語活動をスタートし、英語スキルの向上と意欲を高める指導を取り入れてきた。

しかし、英語を「話す」「聞く」ことが楽しいと思う気持ち、「話せるようになりたい」という意欲の高さは伺えるものの、英語に対しての苦手意識を持つ子も多く、「話すのが恥ずかしい」「間違ったら笑われる」「うまく聞き取れない」など英語に抵抗がある児童がいる点は否めない。

そこで今年度も、上記の主題を設定し、本校の教育目標【指導の努力点】と校内研修の研究方針を踏まえ、外国語の授業（活動）において、英語で表現する楽しさや親しみを感じながら、主体的に英語でコミュニケーションを図る児童の育成を目指す。

そのためには、英語に触れ、慣れ、親しみながら、コミュニケーションへの苦手意識を克服していくための更なる授業改善と教材研究が必要である。

3 研究の主な内容

（1）ねらい（宜野湾市小学校英語教育の目標より）

- ①英語の音声の特徴に触れ、慣れ親しみ、基礎的な英語を聞き、話し手の伝えたいことが理解できるようにする。
- ②基礎的な英語を話すことに慣れ親しみ、場面や相手を考えて場面や相手を考えて自分の言いたいことを伝えることができるようになる。

（2）指導方針・方法

- ①英語学習の進め方や、英語学習を行う意義等について、学習開始前に全職員に対し、ALTによるオリエンテーションを実施。（5月）
- ②英語ルームでのルールの確認や挨拶の仕方、掲示物の工夫。
- ③振り返りカードの具体的な書かせ方（今日学んでできたこと、初めて知ったこと、次時で学びたいこと等）についての徹底。（4～6年）
- ④クラスルームイングリッシュや基本的なあいさつなど、各学級でいつでも使用できるよう、校内LAN・電子黒板を活用。
- ⑤学期毎に複数回の部会（各学年英語担当）を実施し、成果や課題を検討する。
（6月、11月、2月）
- ⑥各学年の目標は以下の通りとする。

【低学年】

- ①歌、リズム遊び、ゲームなどの活動を通して、英語のリズム、イントネーションを体で感じ取り、楽しく英語に触れて、楽しむ。
- ②英語をよく聞き、まねて、意思表示がはっきりできる。

【中学年】

- ①基本的な表現を用いてあいさつをし、簡単な指示に応じたりできる。
- ②動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。

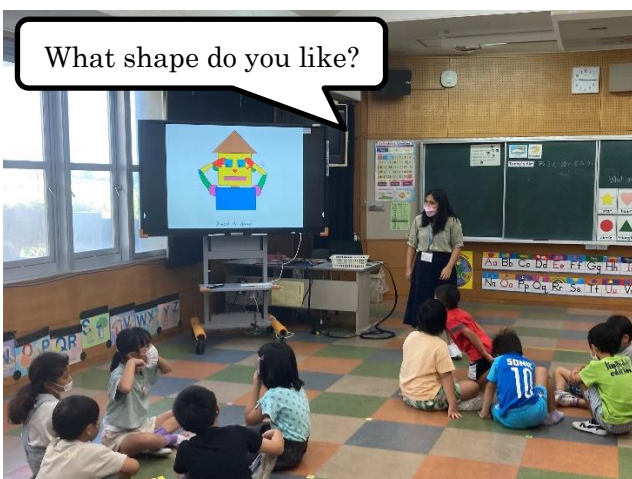
【高学年】

- ①自分や身近で簡単な事柄、日常生活について、簡単な語句や基本的な表現、具体的な情報、短い話の概要を聞き取ることができる。
- ②音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測したり、思い出しながら読み、意味がわかる。
- ③語順の大切さを意識しながら書くことができる。

4 英語活動実践の様子

低学年（1，2年生）

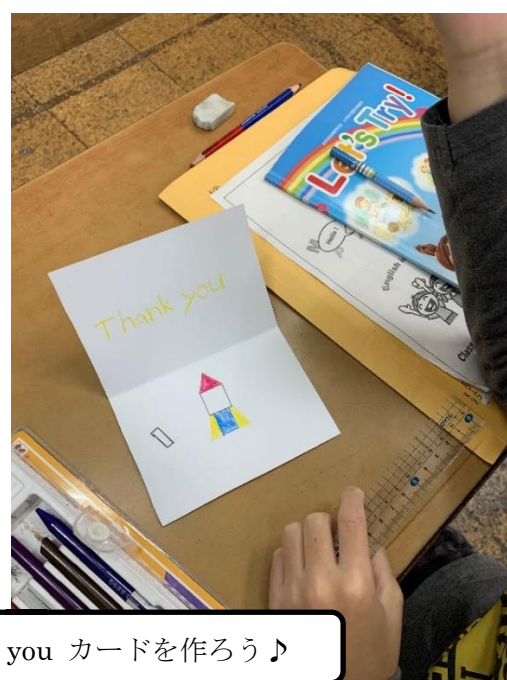
低学年では、「英語に触れる・慣れる」ことを目標に学習を行ってきた。歌、ダンス、チャンツ、絵本の読み聞かせなどの活動を通して、楽しく英語に触れさせた。



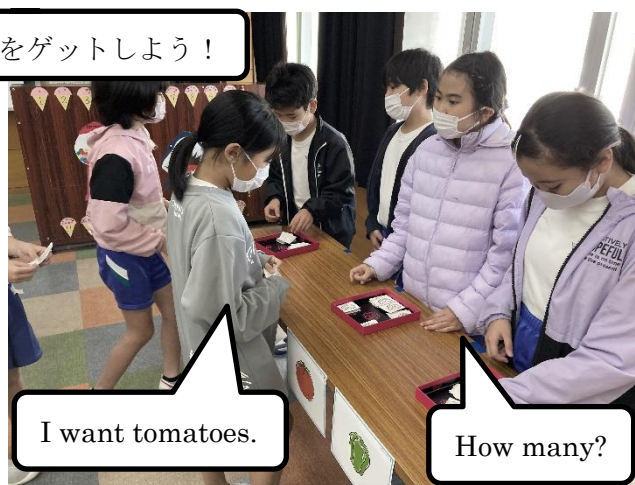


中学年（3、4年生）

中学年では、「英語に慣れる・親しむ」ことを目標に教科書 *Let's Try* の学習を行ってきた。歌、チャンツ、インタビュー、Show & Tell などの活動を通して、基本的な英語表現に慣れさせた。



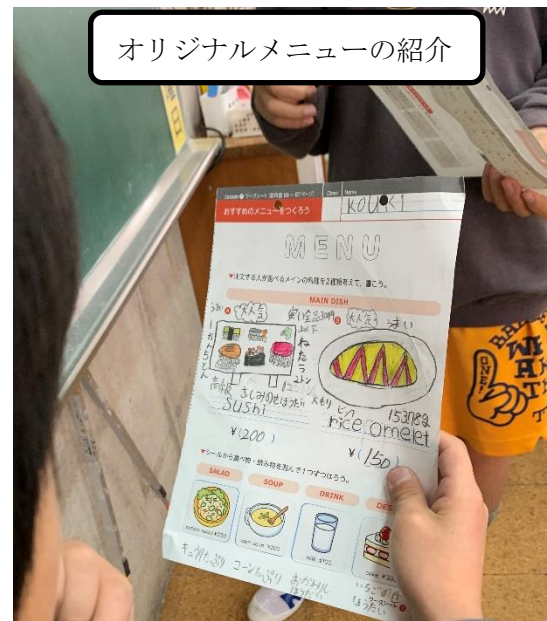
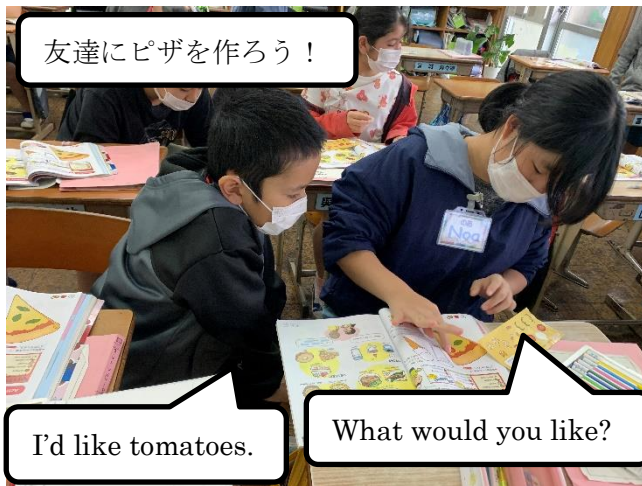
色々な形を使って Thank you カードを作ろう♪



高学年（5、6年生）

高学年では、「英語に慣れ親しむ・英語を使う」ことを目標に教科書 One World Smiles の学習を行ってきた。スキット、インタビュー、Show & Tell、体験的活動を通して、英語表現に慣れ親しませ、楽しくコミュニケーションを図らせた。また、英語を書く活動にも触れ、文字に慣れ親しませた。





5 成果と課題・対応策

< 成果 >

- 児童は、楽しく意欲的に活動に取り組んでいる。
- 普段、発表が苦手な児童も、外国語活動では積極的に手を挙げている。
- 週1回打ち合わせを行うことで、授業展開がスムーズになった。
- ALTの発音をまねして気を付けて練習できた。
- ゲームやリスニング、場面設定での会話のやりとりを通して、楽しく学習ができた。
- 児童同士で、授業への課題を解決しようとする姿が見られるようになった。
- 英語ルームでの授業でなくても、各教室で工夫を施すことでメリハリのある授業ができている。
- ALTの先生に話す時に、英語で伝えようと頑張る児童が増えた。
- 英語を聞き取ろうと一生懸命になっている様子が伺え、英語を聞く力もついている。
- ALTが発音する英語を聞き取って文字と結びつけたり、文字を見て発音を予測したりするようになった。
- 男女交流がすぐにできるようになった。

< 課題 >

- 低学年が外国語に親しめるような工夫がもう少し必要。
→ALTとHRTで授業の打ち合わせを行う。
- 時間内に授業を終わらせることができず、振り返りの時間が確保できないことがある。
→タイムマネジメントの工夫をし、振り返りの時間をしっかりと設ける。
- 評価の方法や評価基準について研修が必要。
- ALTと学級担任との授業に向けての打ち合わせをもう少し早めに取り組むべきだった。
→次年度からは、4月から英語の打ち合わせを行う。
- 発表をする児童がいつも同じ児童になっている。
→間違えても大丈夫、という雰囲気を作る。挙手している児童ばかりをあてない。
- 人の発言に対してのリアクション（反応）がまだ弱い。
→普段の授業の中で、反応の英語表現（“Oh, really?” “Me too.” “I see.” など）に触れさせる。

< 外国語・外国語活動に関する評価 >

学校関係者評価（学校運営協議会による評価）		平均 92.9点
意見	① TV, ビデオ（ユーチューブ）を使った授業は、発音も学べて良いと思います。 ②楽しそうに英語を学んでいます。引き続き楽しい授業をお願いしたい。 ③「聴く」「話す」、思考している様子が素晴らしい。 ④自分が考えていたりより、レベルが高い授業が実施されていた。 ⑤短い時間参観させていただきましたが、子どもたちが笑顔で「楽しい」という声を聞けて取組の定着化を垣間見ることができました。国際社会、グローバル人材育成目標、素晴らしいです。	